

明石市長 泉 房穂 様

あかしSDGs推進審議会

会長 坂下 玲子

副会長 井上 善博

副会長 中野 加都子

あかしSDGs推進計画（明石市第6次長期総合計画）（案）の策定について（答申）

本「あかしSDGs推進審議会」は、市長の附属機関として2020年2月に設置され、貴職からの諮問(2020年(令和2年)2月3日付明政第66号)を受けて、市の最上位計画である「次期（第6次）総合計画」はもとより、本計画に基づく中期的なまちづくりの戦略を定める「まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）」との一体的な策定に向けて取り組んでまいりました。

両計画案については、当初、2020年度中に検討を行い策定する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言等の度重なる発令や、全市をあげて感染症対策に最優先で取り組む必要があったこと、また、感染症の影響による社会経済情勢の変化や、今後の社会全体のあり方を踏まえた十分な検討が必要であったことから、策定を1年間延期せざるを得ない状況となりました。

そのような中ではありましたが、まちづくりの指針となる総合計画等の重要性を踏まえ、書面での各委員からの意見聴取や少人数によるグループ単位での意見交換会、オンラインでの全体会議の開催等、工夫をしながら審議会を進めてまいりました。

検討にあたりましては、審議会の構成委員に、経済や環境団体、地域代表、公募市民をはじめ、障害のある方、学生、外国籍の方などを加えるとともに、半数以上を女性委員とするなど、多様性やジェンダー平等の視点を十分に考慮したうえで、それぞれの立場から、多角的な視点を持って、まちづくりに関する多岐にわたる重要なテーマについて、議論を深めてまいりました。

さらに、計画策定にあたっては、感染症拡大による様々な制限があった中で、市民参画の観点から実施された、オンラインを含めた市民説明会や市民意見箱の設置、学生とのワークショップ「あかし未来図会議」、各種団体との意見交換等を踏まえ、でき得る限り幅広く市民の皆さんの声を反映したものとなるよう、努めてきたところであります。

加えて、市議会の第6次長期総合計画(あかしSDGs推進計画)特別委員会での審議内容や意見を十分に踏まえながら、検討を進めてきたところです。

審議会としましては、2030年の目指すまちの姿やまちづくりの方向性をとりまとめた総合計画として、世界共通の開発目標であるSDGsの「持続可能」、「誰一人取り残さない」、「パートナーシップ」という理念をまちづくりの基軸として位置付け、まちの好循環の維持・拡大に向けて、経済・社会・環境の三側面からの統合的なバランスのとれた取組みによって相乗効果を生み出し、さらに、暮らしの質と安心、まちの魅力を高め発展していくという、まさに、SDGs未来安心都市にふさわしい先進的な将来計画「SDGs推進計画」(案)を策定しましたので、下記のとおり答申いたします。

今後は、本計画に基づき、まち全体、市、市民、事業者、各種団体などとのパートナーシップのもと、このたび一体的に策定しました「まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期)」に位置付ける、具体的な施策・目標を定めた「あかしSDGs前期戦略計画」(案)に取組み、SDGs未来安心都市・明石を実現していくことが大事であり、その中で、まちづくりを取り巻く状況の変化に対応した各種の計画・施策の修正や見直しを図っていくことも大事であると考えます。

最後に、この度の審議会を通して、改めて、各審議会委員をはじめ、このまち明石に対する市民の皆さんの熱意が宝であると実感しております。

については、市において、引き続き、市民の皆さんが安心して暮らし続けていくことができるまちづくりを、市民の皆さんと一緒に進めていただきますようよろしくお願い申し上げます。

## 記

- 1 あかしSDGs推進計画(明石市第6次長期総合計画)(案)
- 2 あかしSDGs前期戦略計画(明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期))(案)